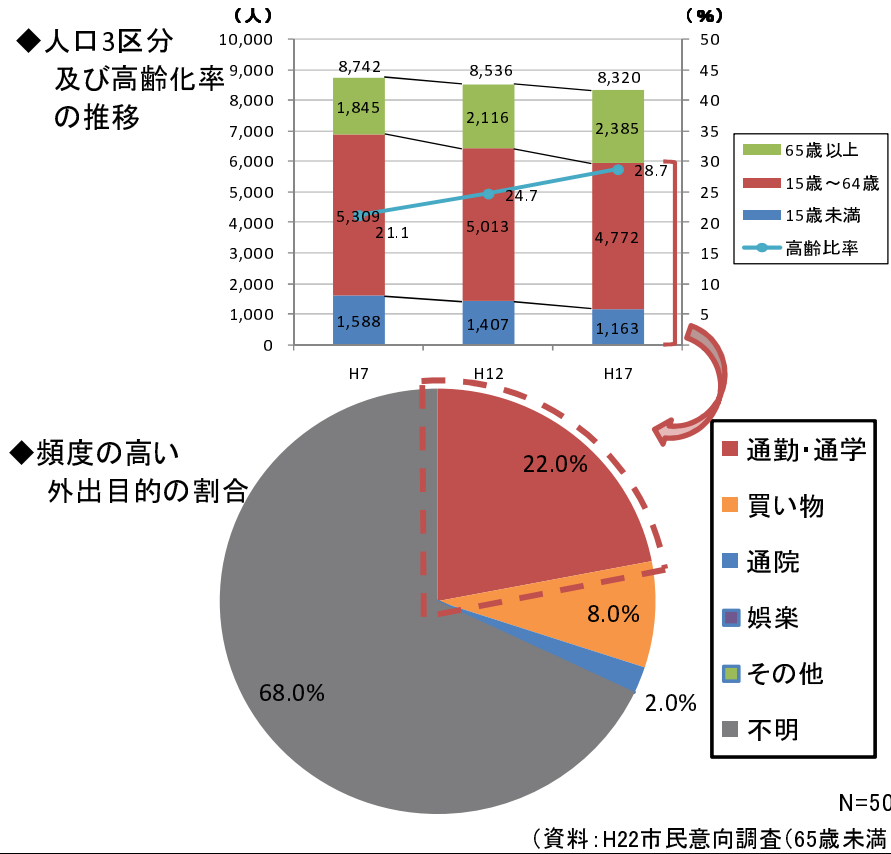


カルテ①: 櫛引地域における現況とニーズの整理

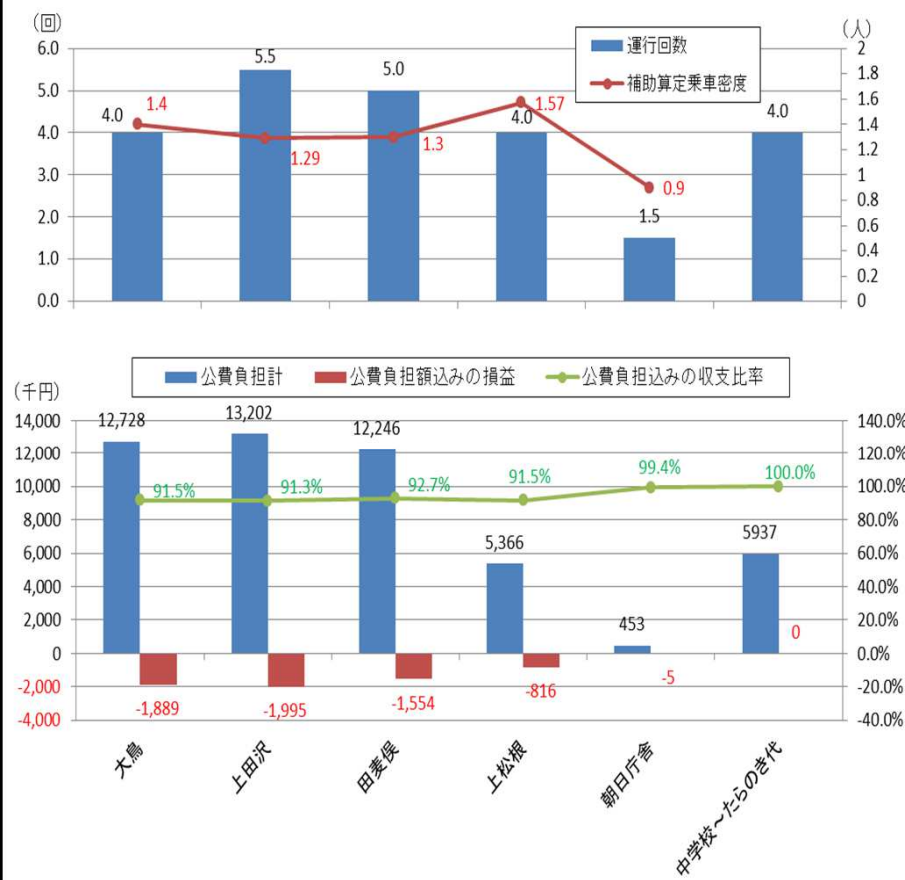
人口動態

- 人口は概ね横ばいである。
- 一方、高齢化率は増加傾向である。
- 人口の約70%を占める65歳未満のうち、頻度の高い外出目的は「通勤・通学」が22.0%で最も多く、次いで「買い物」が8.0%となっている。



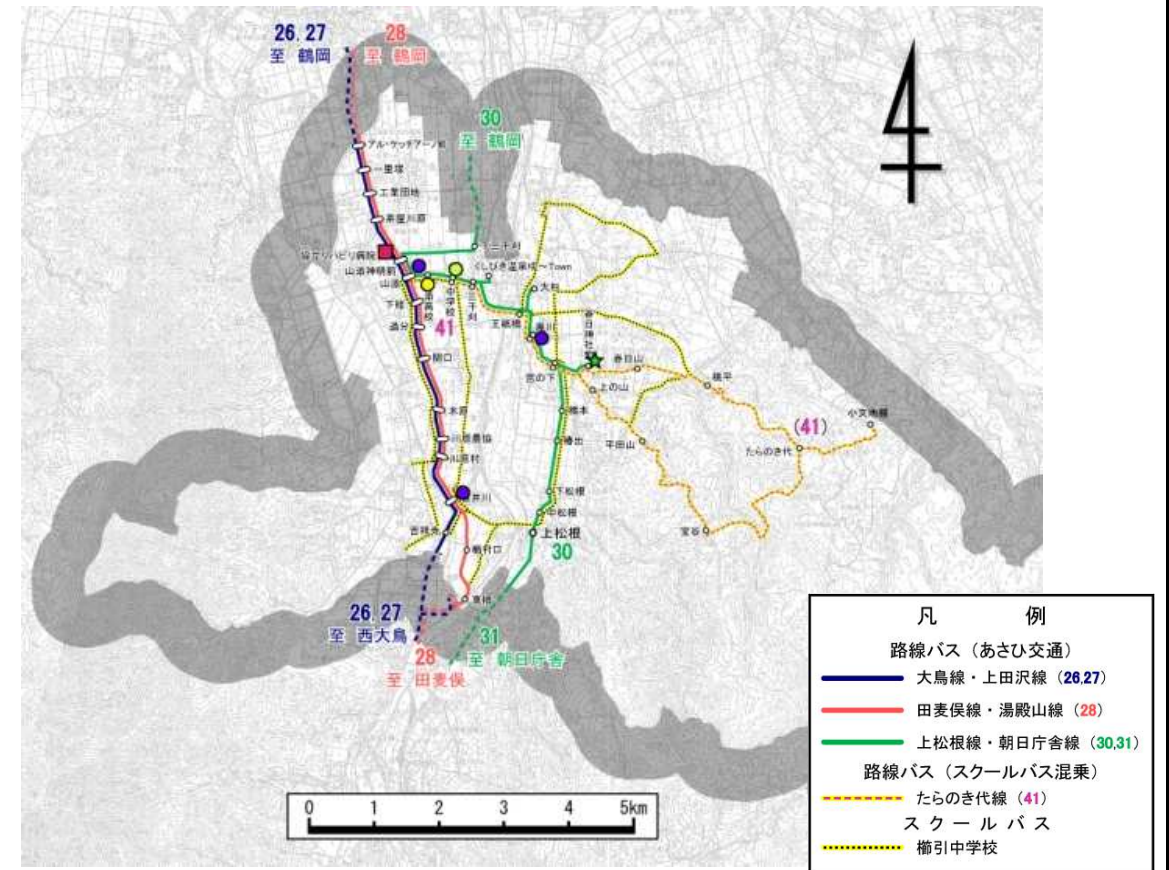
公共交通の利用及び収支状況(路線別)

- 「中学校～たらきの代」は、市が委託するスクールバスの混乗路線である。
- どの路線も乗車密度が0.9～1.57人と低い。



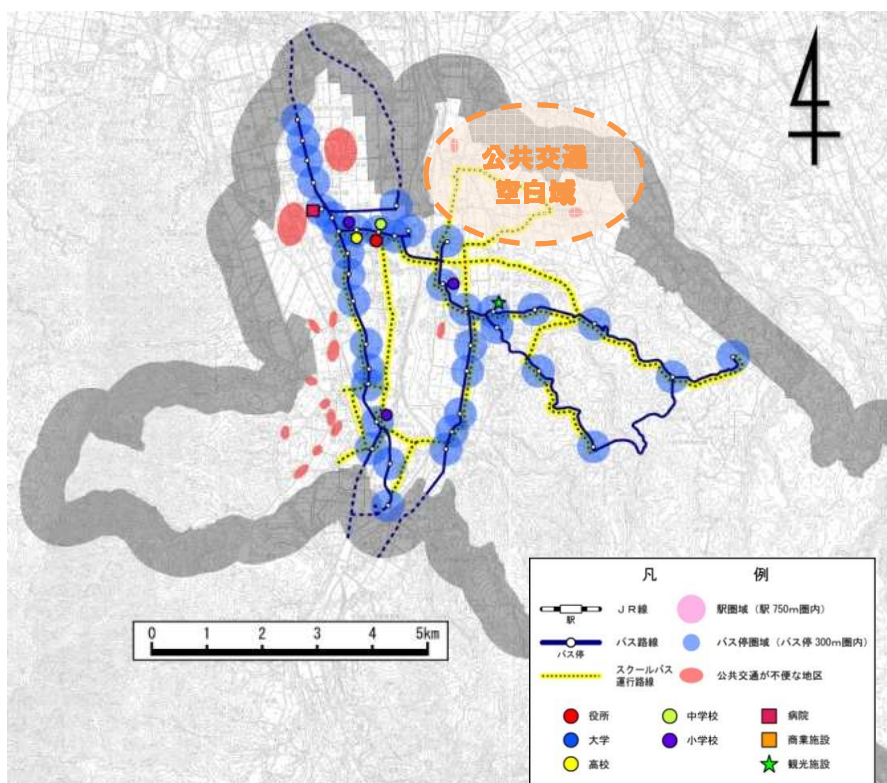
バス運行路線図

○バス路線は6路線あり、地域の北西部で運行している。



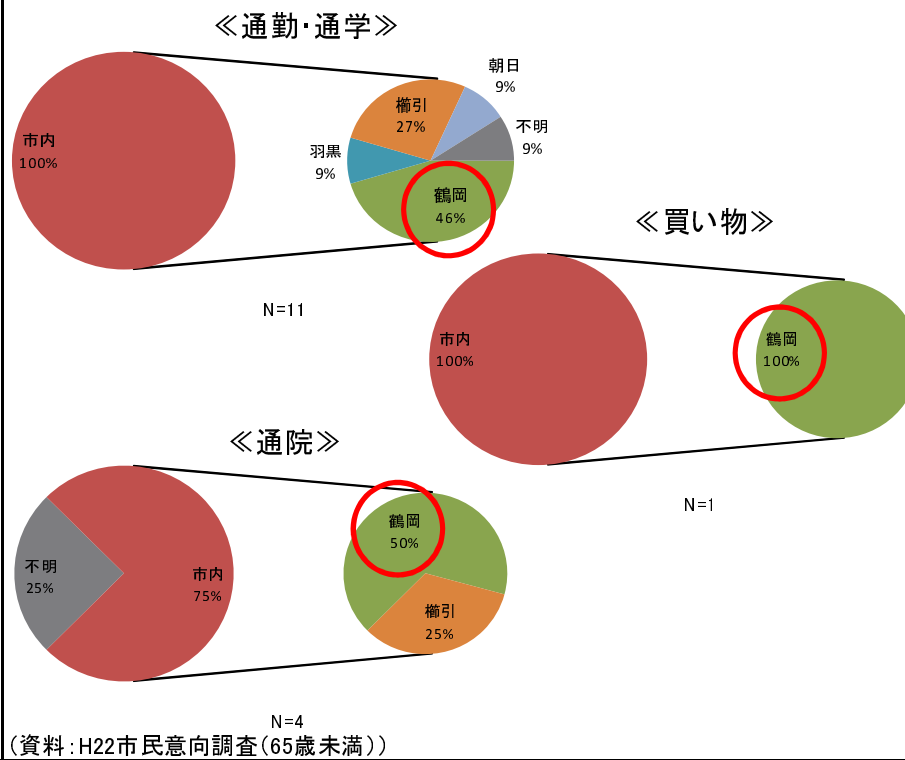
主な目的施設と公共交通空白区域図

- 現状の路線バスの路線網は主な施設を通るように運行されている。
- 人口が分布している上で公共交通空白区域となっているのは地域の北部に位置している。



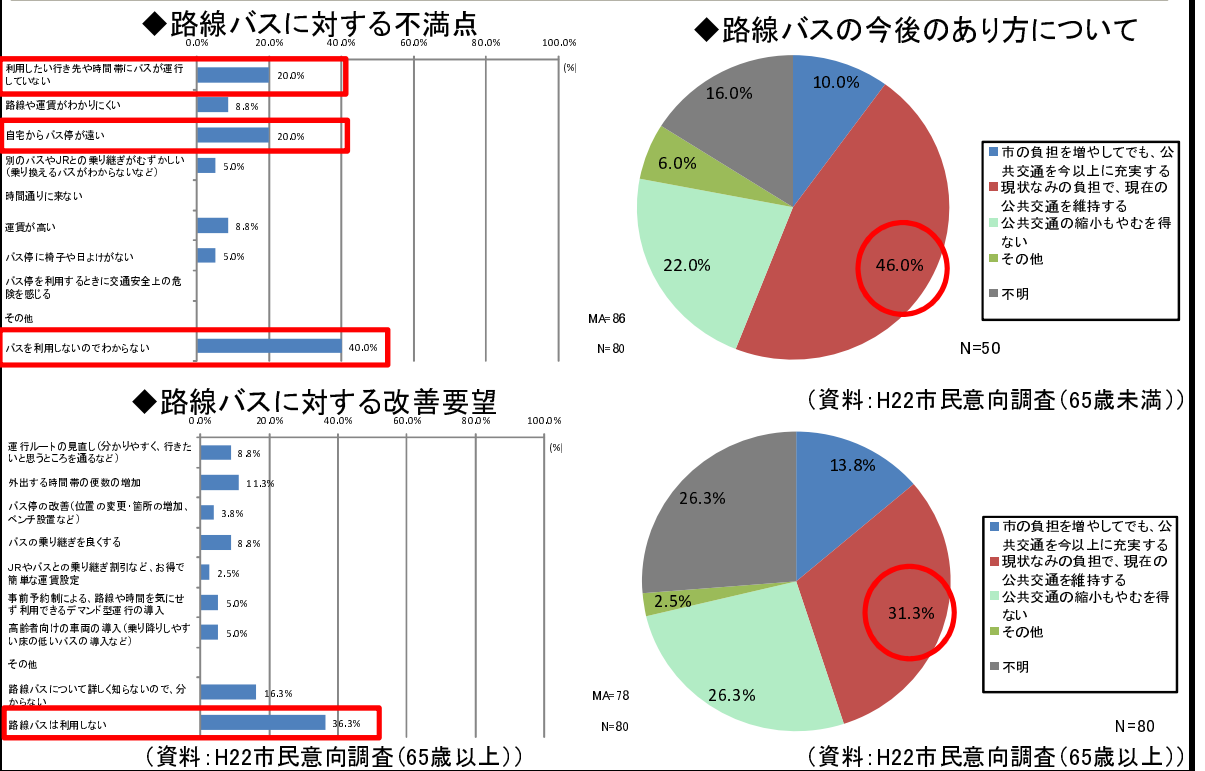
地域内の人の動き

- 通勤・通学、買い物、通院において、鶴岡地域と櫛引地域が主な行先となっている。



住民ニーズ(市民アンケート調査結果)

- 路線バスに対する不満点は、「利用したい行先や時間帯にバスが運行していない」「自宅からバス停が遠い」が20.0%となっている。
- 一方、「バスを利用しないので分からない」が40.0%と最も多く、路線バスの利用率は低い。
- 今後のあり方については、65歳未満と65歳以上で「現状なみの負担で、現在の公共交通を維持する」が最も多くなっている。



カルテ②: 榊引地域における課題の解決に向けた方針と対策

問題点・課題

【問題点】 既存バス路線運行時間や、バス停の位置が利用者の希望に沿っておらず、また住民のバス利用の意識が低いことから、利用者が少ない状況となっている。

↓

【課題】 現在運行している“バス”の運行形態や使い方を再整理し、効率的な運行形態に変える必要がある。また、地域住民や施設利用者が、利用したい(できる)バスを、円滑に利用できるような案内する。

- ・「たらのき代線」は、庄内交通との接続において長い距離を歩いて乗り継がなくてはならない状況となっている。

【問題点】 地域の高校生の減少等に伴い、バス利用者の確保が困難な状況となっている。

↓

【課題】 バス運行を効率化し、利便性を高め、通学以外でも地域住民の日常生活および地域の施設利用者等、よりバスを使ってもらいやすい環境をつくる必要がある。

- ・榊引地域内の人口は、市内他地域と同様、年々減少傾向となっている。
- ・地域内には、大きな病院拠点を有しており、それら施設への利用の可能性が考えられる。

【問題点】 地域住民は、マイカーへ依存をしている状況にある。

↓

【課題】 バス停が最寄りにあるにも係わらず、「利用したことがない、利用の仕方を知らない」等の住民が多いため、公共交通のPRを強化し、公共交通の利用促進を図る必要がある。

- ・地域内は、マイカー利用が多く、公共交通が未活用の状況にある。
- ・住民の中には、最寄りにバス停が設置され、バスが利用可能にも係わらず、バス利用経験が殆ど無く、認知度も低い状況にある。

対策方針(案)

方針① 既存公共交通体系の見直し

■ 既存バス交通体系の見直し

・現在、運行している、民営バス、市営バスなどを、地域の公共交通として総合的に捉え、効率的で利便性が高まる運行形態に見直しを図る。

■ 新たな交通システムの導入検証

・バス路線から離れた地区など、まとまった集落において、地域主導による、デマンド型の新たな交通システムの導入の必要性を検証する。

方針② まちづくりとバスの連携

■ 地域とのタイアップ

・地域住民の日常的なバス利用のほか、地域の病院施設や商業施設などを訪れる地域内外の来訪者がバスを活用できるような、地域内での仕組みを構築する。

方針③ 公共交通利用に対する市民意識の醸成

■ バス利用促進に向けたPR

・地域住民が、毎日の通勤・通学や買い物、通院など、様々な目的でバスを利用できるような啓発を行う。

対策メニュー(案)

■ 既存バス交通体系の見直し・新たな交通システムの導入

- メニュー1: 「鶴岡ー大鳥・上田沢・田麦俣」線の幹線バス化、乗り継ぎ拠点の改善による市営バス利便性向上。
- メニュー2: スクールバス路線の延長の検討。
- メニュー3: バス路線空白地域(田代地区など)における、新たな交通システムの必要性の検証。

■ 地域とのタイアップ・バス利用促進に向けたPR

- メニュー4: 榊引区長会、地域住民、学校、病院施設、地元商店街などとの連携による、地域一帯となったバス利用の促進。
- メニュー5: 通勤・通学、通院、買い物等の住民需要のバス利用促進、需要の掘りおこし。
- メニュー6: 地域住民のバス利用を促す、モビリティ・マネジメント(MM)の実施。

